

産学協働プログラム 「人生 100 年時代の都市・インフラ学」 中間講評会

2021 年 5 月 25 日 (月) @東工大 デジタルホール / Zoom 同時開催

【コメントシート チーム 5】

野原先生

身近な自然との三角形はわかりやすい豊かさですね。人としてははずせない本質の部分はどう迫っていくか楽しみです。

真野先生

- ・質問、コメントは発表会当日でさせて頂きました。
- ・身近に親しむことができる都市レベルの自然と、接することがなかなか感じられない国土レベルの自然をどのようにブリッジするかに興味を持っています。
- ・また、親しんだり、享受したり、共生することなどを前提とした自然と、災害など、生存を脅かす対象、制御すべき対象として見てきた自然の両面を、将来どのように扱うのかも同様に考えるべき大きな課題だと思います。

浅輪先生

ご発表をいただきありがとうございました。緑地も、行政／民間の管理ではなく、皆で使うという概念であるというのは、非常に納得できるものでした。その際に、皆で手入れをすることで、コミュニティも強化されて、地域づくりにとってもプラスであるというようなイメージもあると面白いかと思いました。自然は、住まいの選択にも影響をしますし、子供の学びの場にもなるかと思っています。他のチームのアイデアと、うまく乗り入れができると面白い提案につながるかと感じました。

室町先生

自然のグラデーション図は興味深く拝見しました。将来のことを考えるにしても、映像などで頭で理解するくらいしかできない自然の存在を改めて感じました。身の回りの自然もそうでない自然を感じる上での効果があるのかもしれませんが。

十代田先生

- ・「身近な自然」に絞って、具体的に議論を進めようというのは良い方法かも。
- ・とはいうものの、自然界全体でのあるべき姿論との関係がほしい。難しいか。

鼎先生は授業でご退出された為コメントを頂けませんでした。